

## News Release

報道関係各位

## ～第 11 回 オンコロジーメディアセミナーのご案内～

NPO 法人 がん医療研修機構と大鵬薬品工業株式会社は、情報公開の時代にあつてがんの医療情報をがん患者さんやその家族だけでなく広く正しく国民全体に伝達する必要性から、オンコロジーメディアセミナーを開催いたしております。平成 18 年 7 月 26 日に第 1 回セミナーを開催し、今回で 11 回目を迎えます。がん医療研修機構は主にがん医療に携わる医師、看護師、薬剤師などの全ての共働者によるチーム医療を推進する活動をしてしておりますが、本セミナーの目的として、がんの専門医の先生方にそれぞれのご専門の分野からメディアの皆様に向けてがんの検診、診断、外科手術、化学療法、放射線治療、緩和医療などのあらゆるがん医療についてご講演頂き、メディア記者のがんに関する知識向上を図ることにあります。

皆様におかれましてはご多忙中、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますよう謹んでご案内申し上げます。

NPO 法人 がん医療研修機構 理事長 塚越 茂

## 記

日 時 平成 22 年 1 月 13 日 (水) 17:50～  
会 場 サンケイプラザ 〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-2  
共 催 NPO 法人 がん医療研修機構 大鵬薬品工業株式会社  
後 援 日本癌学会 (予定) 日本癌治療学会 (予定)  
協 力 日本医学ジャーナリスト協会

## テーマ「患者・市民本位の検診・治療」

司会 大野 善三氏 (日本医学ジャーナリスト協会会長 元NHK)

開会にあたって(17:50～18:00)

がん医療研修機構理事長 塚越 茂先生

講演 1 (18:00～19:00)

がん検診の基本的な考え方—市民本位のがん検診の展開のために国立がんセンター がん予防・検診研究センター 検診研究部  
部長 斎藤 博先生

講演 2 (19:00～20:00)

がん治療におけるチーム医療国立がんセンター東病院 外来部消化器科  
吉野 孝之 先生

情報交換会 (20:05～21:00)

\*セミナー終了後、ご講演の先生方と懇談していただきます。

大変恐縮ですが、別紙ファックス返信用紙にて出欠のご返事を 12 月 25 日(金)までにお送りください。

当セミナーに関するお問い合わせ先: オンコロジーメディアセミナー事務局

(株)協和企画内 担当:生熊 倫子

〒105-0004 東京都港区新橋 2-20 TEL:03-3573-2060/FAX03-3573-2064

## < 講演1 講師ご略歴・抄録 >

がん検診の基本的な考え方—市民本位のがん検診の展開のために  
国立がんセンター 齋藤 博先生

がん検診は50歳代を中心に働き盛りの年齢層での早すぎる死を防ぐ有力な手段で、がんによる死因の50%以上を占める大腸がんなど主ながんについて、そのリスクを下げる検診が存在する。これまで乳がん・子宮がんについて、検診による死亡率の減少が世界各国で達成された。そこでの原則は有効性の確立した検診のみを徹底的に精度管理して多くの人に行うというものである。日本では、とくに最初の条件である、有効性についての理解が足りない。がん検診専門家とされる医師の間でさえ検診の有効性の指標が発見率という誤解が多い。がんの発見を指標とすることは医師の満足にはつながるであろうが、過剰診断という早期発見による不利益の存在から、受ける側の受診者には利益どころか不利益しかもたらさない危険をはらんでいる。わが国での現状は、国際的視点とは乖離して、市民に利益がもたらされる検診ではなく、やる側の視点にたった検診に終始していると言わざるを得ない。死亡率が下がるという確証が得られるまでは「推定無効」の原則が不可欠なのである。がん検診には騙し絵のような間違っただけの思い込みにつながりやすい側面が多くあり、正しい理解のためがん検診の基本的な考え方を整理したい。

### 齋藤 博先生ご略歴

1978年3月	群馬大学医学部卒業
1994年4月～	弘前大学医学部講師（内科学第一講座）
2001年11月～	弘前大学助教授
2004年1月	国立がんセンター がん予防・検診研究センター部長（検診技術開発部）
2008年4月	同検診研究部長

## < 講演2 講師ご略歴・抄録 >

がん治療におけるチーム医療

国立がんセンター東病院 消化器内科 吉野 孝之

がん治療には、内科、外科、緩和治療の専門医と他の医療従事者が協力して治療に当たる集学的医療（チーム医療）が必要である。そのために各専門医は治療対象を明確化し治療方針の統制を図り、各患者が最適な治療を受けられる体制整備が求められている。時に一人の患者に対して、種類の違う複数の治療法を選択肢とするケースが少なからずあり、このような場合は特にチームで治療に当たる必要がある。

当院では、2007年10月、国立病院では初となる通院治療部が発足し、外来化学療法や各種処置を行う通院治療センターと疼痛管理・緩和ケアや心理的サポート、通院治療者やその家族の支援などを総合的に取り扱う患者家族総合支援センターの2組織からなり、従来入院で行っていた内科的な治療やケアを総合的に外来で実施する体制を確立している。腫瘍内科医師、看護師、薬剤師のみならず、精神腫瘍科、緩和ケア科医師、CRC、心理療法士、ソーシャルワーカー、栄養士などの多職種スタッフの協力により、より安全で満足度の高い通院治療が行えるように取り組んでいる。

今後、当通院治療部がさらに発展するためには、多職種からなるチームがいかに個々の専門性を高めかつ緊密なコミュニケーションを維持できるかが重要である。そのため定期的に中間的な自己評価を行い、改善点を明らかにし、常に変化することが大切である。本セミナーでは、がん医療の基盤整備の現状と問題点につき論じたい。

### 吉野 孝之先生ご略歴

1989-1995 防衛医科大学

1995-1997 防衛医科大学病院 研修医

1997-1999 国立がんセンター中央病院 臨床検査部・病理部 研修医

1999-2001 国立がんセンター東病院 内視鏡部消化器内科 研修医

2001-2002 国立がんセンター東病院 内視鏡部消化器内科 非常勤医師

2002-2007.7 静岡県立静岡がんセンター 消化器内科 副医長

2007.8-現在 国立がんセンター東病院 内視鏡部消化器内科 医員

海外留学 2005 Mayo Clinic, college of medicine

Vanderbilt-Ingram Cancer Center

Dana-Farber Cancer Institute

**第 11 回 オンコロジーメディアセミナー事務局行き**  
**FAX 返信用紙 FAX 03-3573-2064**

日 時 :平成 22 年 1 月 13 日(水) 17 時 50 分～(受付開始 17 時 30 分～)  
 場 所 :サンケイプラザ 3F 会議室 311.312 〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-2  
 TEL 03-3273-2257

いずれかに○印をおねがいたします。

**ご出席 / ご欠席**

お 名 前	
貴 社 名	
貴 部 署 名	
電 話 番 号	
FAX 番 号	
E - mail	
備 考	

**サンケイプラザへのご案内**



3 階会場までお越しください。